

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会
 平成30年度 (第10回) 会計実務検定試験 管理会計
 解答用紙

【1】	1	2	3	4	5	6

【2】
問1 %

問2 (1) 来年度の予定販売数量 個

(2) 来年度の予定営業利益 千円

(3) 来年度の損益分岐点の販売数量 個

【3】
問1 (1) A製品の販売数量差異 円 (有利 ・ 不利)

A製品の販売価格差異 円 (有利 ・ 不利)

(2) B製品の売上原価数量差異 円 (有利 ・ 不利)

B製品の売上原価価格差異
(売上原価単位原価差異) 円 (有利 ・ 不利)

※解答にあたっては、有利・不利のいずれかを○で囲むこと。

問2	(a)	(b)	(c)
	円	円	円
	(d)	(e)	
	円	円	

試験場校名	受験番号	【1】の得点	【2】の得点	【3】の得点	【4】の得点	【5】の得点	得点合計

【4】

直接標準原価計算による損益計算書

(単位：円)

I	売上高		99,000,000
II	標準変動売上原価		
	月初製品棚卸高	()	
	当月製品製造原価	()	
	合計	()	
	月末製品棚卸高	()	()
	標準変動製造マージン		()
III	標準変動販売費		()
	標準貢献利益		()
IV	変動原価差異		
	材料消費価格差異	()	
	材料消費数量差異	()	
	賃率差異	()	
	作業時間差異	()	
	予算差異	()	
	能率差異	()	
	変動販売費差異	()	()
	実際貢献利益		()
V	固定費予算額		
	固定製造間接費	()	
	固定販売費及び一般管理費	()	()
VI	固定原価差異		
	固定製造間接費差異	()	
	固定販売費及び一般管理費差異	()	()
	営業利益		()

※不利差異の場合は、金額の前に △ を付けること。

【5】

問1 (1) A案を選択した場合の機会原価

	円
--	---

(2) 最大の利益をもたらす案と
その場合の機会原価

案		円
---	--	---

問2 (1) 製品X 1個あたりの貢献利益

	円
--	---

製品Y 1個あたりの貢献利益

	円
--	---

(2) 製品X 1,000個を追加加工し、製品Yとして販売した方が、

	円	だけ（有利・不利）である。
--	---	---------------

(3) 製品Y 1個あたりの最低販売価格

	円
--	---

問3 正味現在価値が

	万円
--	----

であり、

（正・負）の値を示しているので本投資案を採用（すべきである・すべきでない）。

※解答にあたっては、カッコ内のいずれかを○で囲みなさい。

【5】の得点